

**ポーランド
映画**

『COLD WAR あの歌、2つの心』に感動!

またしてもポーランド出身監督のレベルの高さに脱帽。音楽と舞踊でたどる冷戦史(1949~64年)&激しすぎる愛情物語。冷戦下を生き抜くため、ポーランド、パリ、旧ソ連圏諸国と舞台を移し、全編モノクロならではの美しい世界観が二人の心情を強く引き立て、劇中流れる曲「2つの心」は物語が進むにつれいろいろなバージョンに姿を変え心に染み忘れられない名曲になっていく…ズーラ(ヨアンナ・クリーク)、ヴィクトル(トマシュ・コット)役のリアルな演技には圧倒された。

監督はパヴェウ・パブリコフスキ。『イーダ』2013でポーランド映画界初の第87回アカデミー賞(2015)外国語映画賞を受賞した鬼才。

第91回アカデミー賞(2019)3部門(監督賞・撮影賞・外国語映画賞)にノミネート。第71回カンヌ国際映画祭(2018)で監督賞受賞。



※札幌シネマフロンティア 2019/7/26~8/1
※本作を鑑賞した会員の「座談会」を次号に掲載予定

氏間多伊子(うじま・たいこ)

2019年10月のイベント

《第33回定例総会&懇親会》豊平館、2019年10月12日(土)15:30~総会1F下の広間、17:30~懇親会2F広間(ポットラック形式)

入会・退会(敬称略、2019.6~9)

入会:小田晃孝、中條峰人、小島智代、エバ・コワルスカ、退会:秋田正恵

ご寄付ありがとうございます(敬称略)

(2019.5、1口千円) (1)北口久雄

会誌 POLE 定期購読制度

遠方にお住まいの非会員で会誌 POLE の定期購読をご希望の方には、1年(3号)に1,000円のご

寄付をお願いします。

新年度(2019.9~2020.8)会費納入のお願い

年会費(一般3,000円、学生1,500円)と、維持会費(任意のご寄付1口千円)の納入をお願いします。

【郵便振替口座】記号02740 5 番号19735

【加入者名】北海道ポーランド文化協会

または

[北洋銀行(本店営業部)普通預金口座]

[店番号]028[口座番号]0605084

[名義]ホッカイドウポーランドブンカキョウカイ

北海道ポーランド文化協会 会長 安藤厚

※ご請求額については、個別の納入お願い文書と郵便振替用紙を同封します。

目次

豊平館で第33回定例総会&懇親会(小笠原正明).....	1
〈後援〉二風谷アイヌ文化博物館特別展「1903年夏の平取~B・ピウスツキたちの短期調査より」(長田佳宏)・	2
〈後援〉講演と報告の集い「子どもの権利条約採択30周年によせて~日本とポーランド」(塚本智宏).....	2
《第91回例会》ポーランド名画ビデオ鑑賞会 2019-2『カティンの森』[報告とアンケート](園部真幸).....	3
《第90回例会》第9回「午後のポエジア」に参加して(嵩文彦).....	4
どこか懐かしいポーランド音楽(徳田貴子).....	4
私とポロネーズ(坂田朋優).....	5
ポーランド&ニッポン歳時記30(津田モニカ、ピョートル・ヴジェチョノ、霜田千代麿).....	5
《新会員のひと言》(村田譲).....	6
《新刊紹介》塚本智宏著『コルチャックと「子どもの権利」の源流』(塚本智宏).....	6
NHK《ラジオ深夜便》より 忘れられたノーベル賞学者ロートブラット(岡崎恒夫).....	7
札幌国際芸術祭(SIAF2020)ファミリー向けプログラム: Cześć(ちえしち=こんにちは)!(安藤厚).....	7
映画『COLD WAR あの歌、2つの心』に感動!(氏間多伊子).....	8
《ズビグニェフ・ヘルベルト詩集より》2(栗原成郎訳注).....	別冊1
Mrs. Mの語ったシヨパン(長屋のり子).....	別冊一

POLE

第98号 ポーレ編集委員会

氏間多伊子/熊谷敬子/塚本智宏/松山敏/ラファウ・ジェプカ



The・座談会 安藤厚×氏間多伊子×佐藤晃一×松山敏

映画の感動をシェア！

2018年 | 原題 ZIMNA WOJNA | ポーランド・イギリス・フランス |
ポーランド語・フランス語・ドイツ語・ロシア語 | モノクロ | スタンダード | 5.1ch | 88分 ※日本語版DVD発売2020年1月8日

氏間:佐藤さんからの電話で助かりました。見逃すところでした。感銘をうけた映画『イーダ』=写真左=の監督というだけで『COLD WAR あの歌、2つの心』は見なくちゃと思っていました。今日はこの作品の一番のお気に入りの部分やご感想を聞かせてください!



佐藤:この映画は札幌では1週間限定の上映で残念でした。この監督をワイドヤスコロモフスキに続く社会派と捉える向きもありますが、監督自身はそうした風潮には一歩距離を置いて「映画はイデオロギーを表現するものではなく、あくまで芸術的な価値を求めるもの。本作でも歴史的、政治的な事柄を訴えたかったわけではなく、テーマは主人公二人の恋物語。キャラクターが鮮烈であれば、物語や歴史的背景も生きてくる」と政治思想にはとらわれない映画作りを目指したようです。主役が二人とも魅力的、特に女優のヨアンナ・クーリックが…

氏間:同感です! いわゆる年の差恋愛ですが、ヨアンナ・クーリック扮する役名ズーラという少女の成長も描いていて彼女が実に魅力的。ヴィクトルとズーラふたりの感情は終始必要最小限のセリフの中に隠され、それぞれの時間をそっけないほどの暗転のくり返しの中に描いているんですが、不思議にとっても濃密な印象があります。

ショパンと響き合って

松山:私は劇場鑑賞には間に合わず、英語版DVDでみましたよ。主人公のヴィクトルには、かなり明瞭にショパンの情念と行動の傾向がにじみ出ていると思いますね。偶然かもしれませんが、冒頭のオーディションシーンで歌われている“Ja za woda, Ty za woda”は、ショパンが“Grand Fantasy On Polish Airs” Op.13のオーケストラの導入部に引用した美しいマズルカです。

氏間:ショパンとの関連を指摘されて「芸術と亡命」、異文化との接触も丁寧に描かれていることに気づきました。さらに脚本もいいのでは。冷戦を前面にくり広げる展開かと思いきや…伝統音楽の良質のドキュメンタリー映画を思わせる録音風景から始ま

り、あとになって冒頭の数分間は社会主義体制下、政府の文化政策の一環で新舞踊団の準備のためだったと分かります。同時に史実がモデルに。1948年設立の「国立マゾフシェ民族合唱舞踏団」の存在がありますから…NHK「みんなのうた」で放送されて有名になった「踊ろう楽しいポーレチケ」がすぐに思い浮かびますよね(笑)。それになんと11月には、日本・ポーランド国交樹立100年記念の大全国ツアー中のポーランド国立民族合唱舞踏団「シロンスク」(1953年設立)公演を間近に見る機会もあり、こちらも感激しましたア。

冷戦下の有為転変

佐藤:よかったですね。ところで冷戦下の1949年ポーランドでピアニストと歌手志望の少女が



運命的な出会いを果たし、時代の波に翻弄され東西を行き来しながら別れと再会をくり返すこの二人は、監督の両親がモデルだそうで、日本映画では『君の名は』、ポーランド映画では父の体験を描いた『カティンの森』が頭に浮かびますね。

ある雑誌のインタビューで監督は「母はバレリーナで17歳の時に10歳年上の父と出会いすぐに惹かれ合ったそうです。以来ふたりは別れたりふたたびくっついたりしながら、欧州を転々と。60年代になるとポーランドは共産主義が退化、モダンジャズ等の西洋文化が流入し、比較的自由的な空気に包まれましたが、この映画はそれ以前の困難な時代に自分自身のルーツに対する思いを重ね合わせたものです」と語っています。

安藤:画面に〇年〇月というテロップがくり返し出ますね。ポーランドの年配の観客には日付の意味がすぐわかるのでしょうか。私たちでも思い浮かぶのは、戦後のスターリン体制の最盛期、その死(1953)から、スターリン批判の開始・ポズナン暴動・ハンガリー動乱(56)、ベルリンの壁構築(61)に至る引き締めと融和策のくり返しです。

2つの心、4つの瞳～いのちの限り愛す

氏間:確かに…時系列に従って舞台が移り変わりますが、劇中に流れる曲は《オヨ～ヨ～ィ》というリフレインが印象的な愛の民謡「2つの心 Dwa Serduszka」、物語が進むにつれいろいろなバージョンに姿を変え心に染み入る忘れられない名曲《ヴィクトルとズーラ⇒2つの心》へと…。パリで濃密に愛憎劇が展開するあたりは、生き抜くため複雑な愛情表現にならざるを得ません。違った環境でも、このタイプはエネルギーに溢れ常に戦っていて、強烈でいつも動き回って稀有な相互理解関係を結び、結局はたぶん一緒にはなれない孤独なる魂かと…。超越できるか…、サステナブルか…、やはり絶望的な関係でしょうか…

安藤:ロシア革命と内戦の中で多くの作家や芸術家が西側(向こう側)へ亡命しました。その後、ナボコフのように米国で大成功する作家もいれば、ゴーリキーのようにソ連に戻って作家同盟議長まで上り詰めた者もいます。冷戦時代ポーランドでも同じことがくり返されますが、映画の主人公たちは収監覚悟で帰国し死を選ぶわけで、とても美しいドラマに仕上がっていますね。

松山:その昔から、重税、兵役、強制改宗などの政治的圧力から逃れた亡命者たちの帰国がいかに困難だったかが描かれていますね。

また、冒頭とラストの教会の廃墟は大戦の傷痕か、あるいはポグロムかホロコースト後に放棄されたシナゴークなのか…剥がれた漆喰の痕にアイコンがみえるのは何故か…いずれにしても、人々の究

極の祈りは未だ聞き入れられず、神は沈黙を保つ。

吹き抜ける風の向こうへ

氏間:松山さんは DVD でくり返し確認できますね(笑)。十字路のある風景に佇み教会の廃墟で二人が画面右へ消え、繊細な哀しみを漂わせて野分めいた風が吹き抜け…ラストクレジットに流れるグレン・グールドの弾く「ゴールドベルク変奏曲」の「アリア」が二人の魂を浄化するように深い余韻を残します…人々が明確な選択を下した時代でした。

みなさま! 楽しい時間をありがとうございました。
(あんどう・あつし、うじま・たいこ、さとう・こういち、まつやま・さとし)



パヴェウ・パヴリコフスキ 監督



1957年ポーランド・ワルシャワ生まれ。14歳で母国を離れ、ヨーロッパ各地を転々としたのち英国に拠点を構え、80年代末からドキュメンタリー番組を監督。母国で撮影した「イーダ」(2013)がポーランド映画初のアカデミー外国語映画賞を受賞。同じく母国で製作した「COLD WAR あの歌、2つの心」(18)で第71回カンヌ国際映画祭最優秀監督賞受賞、第91回アカデミー賞では外国語映画賞・監督賞・撮影賞の3部門にノミネート。



ポーランド&ニッポン歳時記 31



「ロラティ」

冬には陽が早く沈み、遅く昇ります。この時期、朝早く子供たちがときには手作りの提灯を持って、教会に集まるという面白い習慣があります。「ロラティ roraty」(ラテン語の「ローラテ」から)と呼ばれます。おかげで、クリスマスまでの間、私たちの住んでいる周辺もより暖かく感じることができます。

bezlistne drzewo

宿木の

i tylko wciąż jemiola

緑溢るる

zielona rośnię

枯れ木かな

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

noc się wydłuża

夜が伸びて

na Warszawie Zachodniej

寒風さわぐ

hula wiatr zimny

西の駅

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

冬なみ 小樽より戻れば恋し冬の海
 津や没五十年伊藤整

岩見沢市、霜田千代磨